

平成 30 年度中間決算報告書



株式会社エフエム東京

事業の経過及び成果

世界的に政治、経済情勢の不確実性が続く中、当中間連結会計期間におけるわが国の経済は、企業収益や雇用環境が堅調に推移し、個人消費、設備投資等の内需が回復基調にあった一方で、西日本豪雨、台風21号、北海道胆振東部地震等、相次ぐ大規模自然災害の影響により、被災地を中心とした景況感の悪化も見られ、国内景気全体としては足踏み状態で推移しました。

こうした中、ラジオ広告市場は全体に前期を下回る傾向にあり、厳しい営業環境となりました。当社グループにおいても主力の放送事業収入が期首から前期を下回る水準で推移し、減収となったものの、子会社におけるインフラシステムや大型のシステム開発の受託等、放送以外の事業の売上増により、グループ全体の連結売上高は91億1千万円（前年同期比0.8%増）となりました。

しかし、主力の放送事業収入の減収の影響により、営業利益は5億2千7百万円（前年同期比25.1%減）、経常利益は3億7千6百万円（前年同期比36.2%減）となり、法人税等の変動の影響により親会社株主に帰属する中間純利益は1億6千1百万円（前年同期比51.7%減）となりました。

当社単体の業績については、売上高が61億9千万円（前年同期比4.6%減）、営業利益が2億6千6百万円（前年同期比34.6%減）、経常利益が5億1百万円（前年同期比28.9%減）、中間純利益は3億9千万円（前年同期比28.4%減）となりました。

連結事業セグメント別の営業状況は以下の通りです。

<放送事業活動>

当期4月改編では、編成方針である「共感コミュニティ形成」を更に推し進めるため、コアターゲットM1F1層（20～34歳男女）に感動を提供し、共感を得る話題の選定や番組演出、選曲等を吟味し、強化を図りました。その結果、2018年6月度の首都圏ラジオ合同聴取率調査にて、当社コアターゲットM1F1層（20～34歳男女）の全日平均において、在京単独トップを獲得。課題であった継続聴取も向上し、当社の強みであるF1層で平日6ワイド番組が在京同時間トップを獲得しました。しかしながら、8月度の聴取率調査においてはスコアが減少し、M1F1層において在京2位となる等、下期に課題を残す結果となりました。引き続き番組の内容、演出、選曲に至るまで再検証し、聴取率No.1の奪回を目指して参ります。

TOKYO FMとJFNネットワークでは、新たなラジオプラットフォーム「WIZ RADIO」のスマートフォンアプリを開発。ユーザー拡大に向けてより使いやすいサービスとするよう、強化に取り組んでいます。

全国39のFM局（JFN38局+LOVE FM/福岡）のIPサイマル音声在全国どこでも無料で聴取できる他、オンエア楽曲の試聴・購入が可能となり、加えて、ポッドキャストや、オリジナルの音声コンテンツをオンデマンド配信する等、新しいラジオ体験をリスナーに提供しています。

更に、「WIZ RADIO」では、放送の広告枠をIPサイマル上で聴取者の属性に合わせて自在に差し替える、独自の技術を組み込んだ音声ターゲティング広告「デジタル・オーディオ・アド」の配信を可能としました。これにより、リスナーデータの充実・活用を図り、伸展するインターネット広告費獲得の新たな手法として市場を創出して参ります。

当社の行動理念である「アースコンシャス～地球を愛し、感じる心」「ヒューマンコンシャス～生命を愛し、つながる心」を象徴するイベント「EARTH×HEART LIVE」は、今年で29回目を迎え、当社レギュラー番組を担当するレジェンド・アーティスト、SPITZをメインアクトに、4月9日（月）Zepp DiverCity(TOKYO)にて開催しました。

今年は「～ROCK THE FOREST～ 森を創ろう！」をテーマに、100年後の理想的な森を形成するため計画的に作られた「明治神宮の森」をモチーフに、豊かな森創りと同様、自然も人間社会も多様性と共生が必要であるというメッセージを伝えました。この模様は4月22日（日）に特別番組として全国ネットで放送すると共に、欧米やアジアのネットワークを通じて、世界に発信しました。

世界的作家・村上春樹氏がメディア初出演となった特別番組「村上RADIO」を、8月5日（日）19時～19時55分、JFN全国38局ネットで放送しました。テーマは「RUN & SONGS」。音楽に造詣が深く、「音楽のように小説を書き、小説を書くために体を鍛えること」を40年近く続けてきた村上氏が、自身がランニングをする時に聴いている楽曲を独自の解説に乗せて紹介しました。本人の肉声が初めて聴ける本番組は、多数のメディアで社会的ニュースとして紹介され、新聞は全一般紙、スポーツ紙、全国の地方紙で計113件記事化され、TVではワイドショーのみならずニュース番組でも特集された他、WEBニュース掲載は国内外で合計185のサイトにのぼり、日本のみならず世界的に大きな話題を呼びました。

8月9日（木）、銀座数寄屋橋交差点のソニービル跡地に2020年秋の東京オリンピック・パラリンピック終了までの期間限定で開園した「Ginza Sony Park」内に、Sonyとのパートナーシップにより、サテライトスタジオ「TOKYO FM Ginza Sony Park Studio」を開設しました。

デジタルコミュニケーション全盛の時代に於いて、リスナーと直接交流し、より深い感動体験を創出する拠点として、午後の生ワイド番組「シンクロのシティ」（月曜～木曜15:00～16:50）、新番組「TOKYO SOUNDS GOOD supported by Ginza Sony Park」（金曜14:00～16:55）の公開生放送を実施しています。9月17日（月・祝）には8時間にわたる特別番組を同スタジオから生放送し、多くのリスナーが詰めかけました。今後も銀座の中心から、世界に誇れる東京の音楽とアート、粋な東京カルチャーを発信し、メディア価値の向上を図って参ります。

当社がエフエム徳島と共同制作した番組「ドキュメンタリードラマ『歓喜の歌が響く街～第九の里・徳島県鳴門市の奇跡』」（2018年3月18日13:00～13:55放送）が第55回ギャラクシー賞でラジオ部門選奨を受賞しました。「交響曲第9番が、徳島県鳴門市にあった坂東俘虜収容所のドイツ兵捕虜によってアジアで初めて演奏されてから100年を迎えたという実話から、『第九』という歌の持つ『平和への希求』を改めて考えさせられる感動的な作品」と高く評価されました。

安全・安心と心豊かな情報をお届けするプラットフォームi-dioは5月に仙台親局、6月には広島親局が放送を開始し、これまでに6つの親局（東京・大阪・名古屋・福岡・仙台・広島）と9つの中継局（喜多方・檜原・秦野・静岡・浜松・加古川・北九州・久留米・宗像）が開局しました。エリアカバー率は、東京都で99.7%、全国大都市圏での合計では89.5%と拡がっており、2019年の春には北海道親局の開局により全国での放送が始まります。

来年夏には、i-dioハイレゾ級音声放送対応のコンポおよびホームラジオ型オーディオの発売が決定しており、また、自動車メーカー純正カーナビにi-dioが搭載される他、i-dio対応のカーナビ新端末、既存のカーナビに外付けできるチューナーの発売が決定しております。

兵庫県加古川市では「自治体向け防災情報伝達システムV-ALERT」により、6月の大阪府北部地震、7月の西日本豪雨の際に、住民に対する避難情報や河川の氾濫情報を発信しました。自治体が戸別に配布した端末に、放送波を使って発信したい情報をエリアや相手先を指定して直接届けることができる他、緊急時には端末やサイネージ等を強制起動することで、迅速かつ正確に情報を伝える事が可能になりました。現在運用中の加古川市、全戸に防災端末を配布中の福島県喜多方市をはじめ、東京都あきる野市、静岡県焼津市で導入が決定しており、全国の自治体に拡大しています。

TOKYO SMARTCASTのフラッグシップチャンネル「TS ONE」の編成コンセプトは“Listen, Watch, Share”。番組と連動した画像や情報を見ながら、SNSに投稿できる、放送とネットをシームレスに繋げる番組作りが注目されており、TS ONEの番組は、ツイッターランキングサイトで常に上位にランクインしています。

また、デジタル放送波ならではの新しいビジネスの創出にも取り組んでいます。

GPSの位置情報を補正するデータをi-dio波で配信し、センチメートル級まで測位誤差を縮める基礎実験に成功。位置補正データを全国の車に配信することで、自動運転時代には広範囲で安定的なミリ単位の高精度位置情報サービスが期待されています。

NECと共同開発した、放送と通信によるマルチパスルーティング技術は9月に特許を取得し、サイバーセキュリティにおけるハッキング防止の画期的な手段として、コネクティッドカーやスマートハウス、ICT農業等でのビジネス化にも取り組んでいます。

インバウンドで増え続ける外国人への多言語の情報提供が国家的課題となっておりますが、国際空港のサイネージを起点に、発着するバス・タクシー、更に空港につながる街

全体に緊急情報を配信する情報プラットフォーム構想の具体化を進めています。平常時には空港の運行情報、ニュース、観光情報等をサイネージに配信し、災害時には、外国人旅行者へ向けての多言語対応緊急情報端末として活用する実証実験がスタートします。

来日数が最も多い中国人旅行者に向けた中国語による放送とWEBのコミュニケーションプラットフォーム「八六東京（パーリュウ・ドンジン）」は、中国最大のメディアコングロマリッド SMG（上海メディアグループ）との業務提携を軸に、日中のパートナー企業と共に情報配信サービスを展開しています。

上海で約10%の聴取率を誇るSMGとの共同制作番組「ノンハウ・ドンジン」では、番組のパーソナリティが地震による風評被害で外国人観光客が減少している北海道と青森を来日取材し、中国全土へ向けた復興支援番組を放送し反響を得ました。

また、中国最大の国営TVショッピングチャンネル「東方ショッピングチャンネル」と業務提携し、日本にいながらにして、中国国営TVショッピングやECサイトによる、およそ14億人にもものぼる中国マーケットへ向けた販売が可能となりました。中国における電子商取引法の改正が来年1月に施行されることにより、個人の代理購入にも営業許可証の取得が必要となり、納税の義務も生じる上、違反者には刑事責任が問われるなど中国ECサイトでの日本製品の販売が大きく規制されるため、放送局の信頼をベースにしたこの物販事業は、簡単な手続きで提供できる希少性の高いオフィシャル販売として注目されています。

<企画・制作事業活動>

今年で3回目の主催となる日本最大の野外ロック・フェスティバル「ROCK IN JAPAN FESTIVAL 2018」を国営ひたち海浜公園で開催しました。8月4日（土）、5日（日）、11日（土）、12日（日）の4日間で、出演アーティストは201組、総来場者数27万6千人、という過去最大規模となりました。音楽フェス初登場となった当社レギュラー出演者・松任谷由実、13年ぶりの出演となった、デビュー40周年のサザンオールスターズらが登場し大きな話題となりました。

8月26日（日）にはレギュラー番組「SCHOOL OF LOCK!」が次世代アーティストを発掘する10代限定の夏フェス「未確認フェスティバル2018」を新木場スタジオコーストで開催しました。全国3,067組の中から予選を勝ち上がった8組が決勝の舞台に立ち、今年は4人組バンド「マッシュとアネモネ」がグランプリに輝きました。

7月には、アルゼンチンの大統領夫人として国民に愛されたエヴァ・ペロンの生涯を綴ったミュージカル「エビータ」に出資参画、ミュージカル界の人気スター、ラミン・カリムルーを日本公演限定で迎え、31回にわたったステージは連日大盛況となりました。

<インフォメーションプロバイダー事業活動>

連結子会社ジグノシステムジャパン(株)では、各種アプリやLINEスタンプ等のコンテンツサービスの売上が、キャリア側の配分原資縮小の影響により伸び悩んだものの、6月にi-dio放送関連のマスター設備の受注や、9月にNTT関連の大型案件等により増収となりました。

<賃貸事業活動>

賃貸事業の売上高は1億2百万円（前年同期比0.6%増）となりました。

<その他の事業活動>

TOKYO FM少年合唱団は、鬼才マルク・ミンコフスキー指揮の東京都交響楽団「チャイコフスキー バレエ音楽くるみ割り人形」、新国立劇場の歌劇「トスカ」に出演し、内外一流アーティストと共演する等幅広く活動しました。

直営2店舗によるレストラン事業を加えたその他の事業の売上高は、4千6百万円（前年同期比6.1%増）となりました。

前年同期比較中間損益計算書（連結）

2018年4月1日～2018年9月30日

（単位：千円）

勘定科目	2019年3月期中間期 (2018.4.1～ 2018.9.30)	2018年3月期中間期 (2017.4.1～ 2017.9.30)	前年同期比
売上高	9,110,291	9,042,366	100.8%
売上原価	5,882,800	5,591,679	105.2%
売上総利益	3,227,490	3,450,687	93.5%
販売費及び一般管理費	2,700,026	2,746,057	98.3%
営業利益	527,464	704,630	74.9%
(売上高営業利益率)	5.8%	7.8%	
営業外収益	78,919	78,655	100.3%
営業外費用	229,996	193,584	118.8%
経常利益	376,387	589,701	63.8%
(売上高経常利益率)	4.1%	6.5%	
特別利益	1,637	12,285	13.3%
特別損失	879	4,768	18.4%
税金等調整前中間純利益	377,146	597,218	63.2%
法人税、住民税及び事業税	151,471	219,142	69.1%
法人税等調整額	52,570	24,847	211.6%
中間純利益	173,104	353,228	49.0%
非支配株主に帰属する 中間純利益	11,898	19,245	61.8%
親会社株主に帰属する 中間純利益	161,206	333,983	48.3%

(注)金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

前年同期比較中間損益計算書（当社単体）

2018年4月1日～2018年9月30日

（単位：千円）

勘定科目	2019年3月期中間期 (2018.4.1～2018.9.30)	2018年3月期中間期 (2017.4.1～2017.9.30)	前年同期比
売上高	6,190,141	6,490,450	95.4%
売上原価	3,994,147	4,118,056	97.0%
売上総利益	2,195,994	2,372,394	92.6%
販売費及び一般管理費	1,929,302	1,964,409	98.2%
営業利益	266,692	407,984	65.4%
（売上高営業利益率）	4.3%	6.3%	
営業外収益	259,355	322,899	80.3%
営業外費用	24,730	25,625	96.5%
経常利益	501,317	705,259	71.1%
（売上高経常利益率）	8.1%	10.9%	
特別利益	—	—	—
特別損失	879	4,768	18.4%
税引前中間純利益	500,438	700,490	71.4%
法人税、住民税及び事業税	97,105	160,088	60.7%
法人税等調整額	13,237	△ 4,402	—
中間純利益	390,094	544,804	71.6%

（注）金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

前年同期比較売上高内訳書(当社単体)

2018年4月1日～2018年9月30日

(単位:千円)

	2019年3月期中間期 (2018.4.1～2018.9.30)	2018年3月期中間期 (2017.4.1～2017.9.30)	前年同期比
売上高	6,190,141	6,490,450	95.4%
放送事業収入	5,686,706	5,977,321	95.1%
放送収入	3,652,464	3,804,287	96.0%
タイム放送料	2,659,617	2,780,488	95.7%
スポット放送料	992,847	1,023,798	97.0%
制作収入	1,321,225	1,425,819	92.7%
その他	713,016	747,214	95.4%
企画事業収入	334,202	349,655	95.6%
賃貸事業収入	119,883	119,311	100.5%
その他事業収入	49,349	44,162	111.7%

(注)金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

54期(上期)広告会社取り扱い順位

<総合順位>

54期	53期	広告会社
1	2	博報堂DYメディアパートナーズ
2	1	電通
3	3	アサツーディ・ケイ
4	10	全農ビジネスサポート
5	4	大日本印刷
6	5	東急エージェンシー
7	7	日本経済広告社
8	6	オリコビジネス&コミュニケーションズ
9	8	ユータムエンタープライズ
10	72	ながのアド・ビューロ

<タイム>

54期	53期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	3	アサツーディ・ケイ
4	10	全農ビジネスサポート
5	4	大日本印刷
6	5	オリコビジネス&コミュニケーションズ
7	6	日本経済広告社
8	8	東急エージェンシー
9	53	ながのアド・ビューロ
10	13	日本経済社

<スポット>

54期	53期	広告会社
1	2	博報堂DYメディアパートナーズ
2	1	電通
3	4	ユータムエンタープライズ
4	5	東急エージェンシー
5	6	エスプロックス
6	8	放送文化事業
7	3	アサツーディ・ケイ
8	7	オリコム
9	-	Screen Games
10	23	一広グループホールディングス

2019年3月期 中間決算短信

2018年11月29日

会社名 株式会社 エフエム東京
 URL <http://www.tfm.co.jp>
 代 表 者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 千代 勝美
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 グループ経営管理室長 (氏名) 山本 朋子 TEL (03)3221-0080
 配当支払開始予定日 2018年12月17日

(百万円未満切捨て)

1. 2019年3月期中間期の連結業績 (2018年4月1日～2018年9月30日)

(1) 連結経営成績 (%表示は対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期中間期	9,110	0.8	527	△25.1	376	△36.2	161	△51.7
2018年3月期中間期	9,042	△3.7	704	5.0	589	5.0	333	△15.8

	1株当たり中間純利益		潜在株式調整後 1株当たり中間純利益	
	円	銭	円	銭
2019年3月期中間期	179	93	—	—
2018年3月期中間期	372	77	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円		百万円		%	
2019年3月期中間期	40,487		30,826		75.1	
2018年3月期	39,628		30,308		75.5	

(参考) 自己資本 2019年3月期中間期 30,418百万円 2018年3月期 29,906百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					
	中間期末		期末		合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
2018年3月期	60	00	60	00	120	00
2019年3月期	60	00				
2019年3月期(予想)			60	00	120	00

※注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- | | |
|----------------------|---|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | 無 |
| ② ①以外の会計方針の変更 | 無 |
| ③ 会計上の見積りの変更 | 無 |
| ④ 修正再表示 | 無 |

(3) 発行済株式数 (普通株式)

- | | | | | |
|----------------------|-------------|----------|-------------|----------|
| ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む) | 2019年3月期中間期 | 900,000株 | 2018年3月期中間期 | 900,000株 |
| ② 期末自己株式数 | 2019年3月期中間期 | 4,057株 | 2018年3月期中間期 | 4,057株 |
| ③ 期中平均株式数 (中間期) | 2019年3月期中間期 | 895,943株 | 2018年3月期中間期 | 895,943株 |

(参考) 個別業績の概要

(百万円未満切捨て)

1. 2019年3月期中間期の個別業績 (2018年4月1日～2018年9月30日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期中間期	6,190	△4.6	266	△34.6	501	△28.9	390	△28.4
2018年3月期中間期	6,490	△2.6	407	0.7	705	4.2	544	4.3

	1株当たり中間純利益	
	円	銭
2019年3月期中間期	433	44
2018年3月期中間期	605	34

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円		百万円		%	
2019年3月期中間期	39,562		31,449		79.5	
2018年3月期	38,778		30,704		79.2	